

## 1. 調査報告概要表

作成日 平成20年11月3日

## 【評価実施概要】

事業所番号	( 評価機関で記入 ) 3 4 7 0 5 0 1 7 7 0
法人名	医療法人豊和会
事業所名	グループホームTOYO
所在地	広島県呉市伏原一丁目8番13号 (電 話) 0823 - 21 - 0333
評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島県広島市安佐北区口田南4 - 46 - 9
訪問調査日	平成20年10月24日

## 【情報提供票より】(20年 9月 9日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	11 人	常勤	9 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 10.1 人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	4 階建て	2 階 ~ 3 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	52,500 円	その他の経費(月額)	25,200 円	
敷 金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 409,500 円) 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,575 円	

## (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	8 名	要介護2	7 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	63 歳	最高	96 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	豊田内科胃腸科
---------	---------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

病院に併設されたグループホームであり、地域へのとけこみは親会社である病院と一体となった取り組みとなっており、入居者は全部地域の人である。ホーム内では入居者がゆったりとした落ち着いた生活をしておられた。管理者と職員はよく連携をとり介護の相談をしながら仕事に従事している。職員は仕事をさせられているというよりこの仕事が自分でも納得できるように取り組んでおりこれからもこの状態でホームが運営されることが期待できる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の内容をよく検討し取り入れるほうが良いのなったものは積極的に取り組んでおられた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営状況をきちんと自己評価されており、それと外部評価をはじめ外部の人の声を聞き運営するように心がけておられる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	地域の多くの人の声を聞き、運営状況を知ってもらい取り組みがよく現れている。会議に出された声により新しい取り組みがある。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族へは「たより」を一人ひとりの生活状況を知らせておられる。家族の声を聞くためのこえかけなど良くておられる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩や外食などの取り組みのほかに地域の保育所の行事に参加する取り組みがあり地域との結びつきを前向きにしておられる。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	このホームに生活している人たちの気持ちを大切にす る理念を作り大きく書き出している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に 向けて日々取り組んでいる	職員はこの理念に副って”にこやかに”の気持ちをもっ て入居者に接するように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自 治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地 元の人々と交流することに努めている	地域の保育所に訪問したりして入居者と地域の人たち との交流を行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評 価を実施する意義を理解し、評価を活かして具 体的な改善に取り組んでいる	ホームをよくするためには外部の声を聞く姿勢がよく見 られ、外部評価の意見をよく検討し取り入れている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活か している	自治会長(5名)、民生委員(6名)、保育園の理事、地 域包括の長などの参加により開催されており、ホームの 運営から地域とのかかわりを作る話し合いがされてい る。		

グループホームTOYO

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターとは連絡をとり訪問がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	一人ひとりの家族に個別の内容(生活状況や医師の診察結果など)でたよりを出しており、家族からは状況がよくわかるとの声がある。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の声はいつも聞くようにしておられる。		運営推進会議に家族を参加させて運営状況を知らせることや家族の声を聞く機会を持たれるとよい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	全職員が2F,3Fを交代しておられ、入居者と職員全員の顔なじみを図られている。なお、職員の退職は少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上を図るためのミーティングの実施や全職員一緒に食事会をしている。外部研修に参加した職員がミーティングでその内容の報告を行なっている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内での交流が少ないのでほかの業者と連絡をとり実施の方向での努力をしておられる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者は全員呉の人である。入居希望者の見学を受け入れている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者と職員の会話は自然であり、入居者一人ひとりに対応した会話をしている。ケアカンファレンスは月ごとのリーダーにより行なわれており入居者一人ひとりに対応できるように努めている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>和式トイレを利用している人が入居され、洋式に慣れるためにいろんな苦勞をされたが今は落ち着いて洋式を利用されるようになった。納涼祭ではお酒を出して楽しんでおられる。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月リーダー制を取り入れて毎月リーダーを中心に職員参加でケアカンファレンスを行なっている。ケアプラン作成時には前回の計画の評価を行ってからケアプランを立てている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>三ヶ月ごとに見直しがされており、そのとき前回の評価を行ってから計画をたてられている。計画時には家族、職員の意見が反映されている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスの施設を利用してOPなどを行っている。外部からのボランティアさんの催しにはデイサービス利用者と一緒に参加している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は月2回の定期訪問診察と、何かあるときにはすぐ往診している。なお診察結果を たよりに記載して家族に知らせている。( たよりは個人ごとに作られている。)		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	親会社が病院なので重度化してくるとそちらで対応している。家族はかかりつけ医の診察状況をよく知っており安心しておられる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレを各居室に作っており個人の尊厳を守るように取り組んでいる。職員は声かけなどの取り組み方をよく教育されており、情報の管理も事務室できちんとしておられる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は入居者とよく話しをしており、一人ひとりの気持ちを聞きながらの支援をしている。		

グループホームTOYO

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時には外食をしたりしており、納涼祭ではお酒も出ている。後片付けは職員と一緒にこなしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回の計画であり時間は自由に入れるようにしている。入られない人には足浴をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外食や納涼祭でのバイキング料理とお酒など生活の中での楽しみがある取り組みをしておられ、入居者もそれが待ち遠しい感じである。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物への外出や外食、幼稚園の行事への参加などの取り組みが増えている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	エレベーターは自由に動かさない状態であるが、階段は自由に利用できる。		徘徊をなくすための取り組みが見られるがもう少しの努力が期待される。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回実施しておられる。入居者の避難訓練を行なっている。緊急時にはグループホームだけでなく豊和会全体での取り組みがある。		

グループホームTOYO

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事量や水分摂取量を記録し栄養状況を確認している。体重測定を毎週月曜日に行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い共用空間があり、ソファにかけている人。椅子に座りテレビを見ている人など過しやすい空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にトイレ、洗面所がありプライベートなところが個人で処理できるようになっている。居室内には冷蔵庫、箆笥、コーヒーセットなど入居者の希望するものが持込まれている。		